

令和6年度 第2回学校運営協議会 議事録

日時：令和7年1月24日(金)

10:00~11:30

場所：会議室

○出席者

A 委員(地域代表) B 委員(医療・福祉関係者) C 委員(福祉関係者)

D 委員(医療関係者) E 委員(学識関係者) G 委員(PTA代表)

※F 委員(教育関係者)は所用のため欠席。

○学校見学 10:00~10:30

○会議 10:30~11:30

1 開会

2 校長挨拶

本校では1月10日から冬休みの授業が再開しており、来週には高等部の入学選考が予定されていることから、受検者や職員についても、感染症等に気をつけながら授業を進めている。また、これから寒さや乾燥も続くことから児童生徒の健康・安全には十分気をつけながら、年度のまとめの学習に取り組んでいきたい。5月の第1回目の本会議以降では10月26日に行われた学校祭で、保護者や学園職員の方々をはじめ、本協議会の皆様と、地域の皆様にも多数ご来校いただき、児童生徒の発表にたくさんの応援や励ましの声をいただいた。また、地域で行われている松園芸術文化祭にも高等部生徒が司会で参加させていただくなど、昨年以上に地域で活動する機会を多くもたせていただいている。本日の会議では学校の各担当から本年度の取組について説明及び報告をさせていただく。皆様から御指導、御助言をいただき、次年度の学校経営にさらに活かしていきたい。(校長欠席のため副校長が代読)

3 学校経営計画及び学校評価報告

- ・本年度の学校経営計画について再度確認。
- ・学校評価報告についてはアンケート結果を含め報告。
- ・学校評価についてG委員から質問

G 委員：自己評価の割合のパーセント、実績等のパーセントの出し方はどのようになっているのか。

副校長：後から示すアンケートの回答データより出している。

G 委員：重点目標のオについて、R5 年度が R4 年度より評価が落ちている。今年度の小学部のアンケート結果の「いじめ」項目を見ても評価が 100%ではない。子供から出た声を第一に対応すべきだが、この結果を見たうえで、学校は何か取組をしているのか。

副校長：児童に学校生活アンケートを実施しており、いじめの可能性が浮上した時点で「いじめ（防止）対策委員会」を実施している。いじめの解消方法は岩手県からの指針に従っている。今年度評価も 100%ではないが、いじめ防止対策委員会を実施して対応している。

G 委員：いじめられた側、いじめた方、どちらも指導するのか。。

副校長：そのように対応している。

4 本校の教育活動について

(1) 小学部

(2) 中学部

(3) 高等部

(4) 総務部

(5) 教務部

(6) 生活指導部（生徒指導）

(7) 進路指導部

各主事・主任等から説明

5 意見・提言

A 委員

- ・10月の学校祭では、保護者も大勢参加し、生徒たちものびのびと楽しそうに活動している姿が見られた。
- ・児童生徒へのアンケート、項目9の「私は盛岡青松支援学校で学んでよかった」について

地域、社会に出る直前の高等部で、3.8 という高い数値を出せているのは、新しい試みを恐れずに日々を重ねている教員の努力の賜物だと感じた。

B 委員

- ・昨年度から比べて、今年度は生徒が増えている報告というがあり、青松支援学校が地域の中で活用されてきており、良いことだと感じている。この環境を、より多くの困っている子供たちが利用できれば良いと思っていたので、生徒が増えてくれて嬉しく感じている。

(質問)

- ・教員や学校として、児童生徒が増えた要因は何だと考えているのか。このことをどう捉えているかが、今後、青松支援学校が地域に貢献していくことができる要因につながると考える。

(回答：副校長)

- ・今年はここ数年になく増え方が大きかった。来年度もまた増えるのではないかと予想される。要因としては世の中がコロナ禍が落ち着き、人の動きが活発になってきていること、また指導体制の問題で受け入れられなかった子供たちにも間口を広げ、受け入れる姿勢が昨年より前向きになったこと、地域の方々からのニーズ（相談や見学）が増えてきたこと等が考えられる。

(質問者)

- ・今後とも今年度のような姿勢で対応していただきたい。

C 委員

- ・今、施設で働いているのは、ほとんどが知的障がいの方で、青松支援からの利用者は 1 名のみである。本日の報告内容から発達障がいや精神障がいが増えていることも含め、こちらとしても間口を広げていきたい。施設も変わっていかねばならないと感じている。
- ・施設では、以前は課題がある利用者に対して指導や訓練を行わなければならないという考え方があったが、今日ではそれぞれの個性や好きなものをより伸ばして、日々楽しく過ごしていけるよう取り組んできている。学校でも全般的な取組が、生徒一人一人に合わせていると感じた。
- ・多様な生徒が増えている中、統一性のある活動を行うことは難しい。その中でも学校側が、

生徒それぞれに合わせた取組を行っていることが報告の中からうかがえた。施設に帰ったら利用者の視点で見るといいようにしたい。参考になった。

(質問)

・小学部から高等部のアンケート結果について、タブレット番号の記載があるが、どの生徒が回答したものなのか把握しているということか。

(回答：副校長)

そのとおり。

(質問者)

生徒も回答を把握されていることをわかった上で、回答結果をその後の指導に生かしているのか。

(回答：副校長)

生徒に記述の回答はデータとして出していない。記名式ではないが、教員が把握するためタブレット番号で記載。教員が確認し、それぞれ対応するようにしている。

D 委員

設備が充実していると感じた。

病院でも発達障がいの子供はコミュニケーションをとるのが大変と感じるが、教員もよく健闘していると思う。

アンケートやワンハートボックスについて。病院では、QRコードを活用しているので、取り入れてみてはどうか。

E 委員

アンケートのいじめについての項目より。いじめられた生徒によく聞き取りをすること。必要に応じてスクールカウンセラーなどとも連携を図り手厚く対応する必要があるだろう。

運営委員になってから特別支援学校の活動や、障がい種等を詳しく知った。はじめは授業が成り立つのかと疑問だったが、授業見学時に受け答えや発言にとっても驚かされた。その見学の際、将来学芸員になりたいという学生がいたことを他の職員から聞き感激した。

自分を含めほとんどの方は、支援学校の様子をあまり知らないので、支援学校・教育の様々な

形を、もっと多くの方に知って欲しいと思っている。

G 委員

今年、来年と生徒数は例年に比べ増えるようだが、今日の様子を見ると、実際に登校している生徒が少ない。学校に来られる生徒だけでみれば、今後も数はほとんど変わらないのではないかと。

小学部の活動報告にある野菜作り体験は、収穫までできるとより良い体験学習になると思うので検討して欲しい。

6 承認

本日の報告については全会一致で承認。

7 閉会